

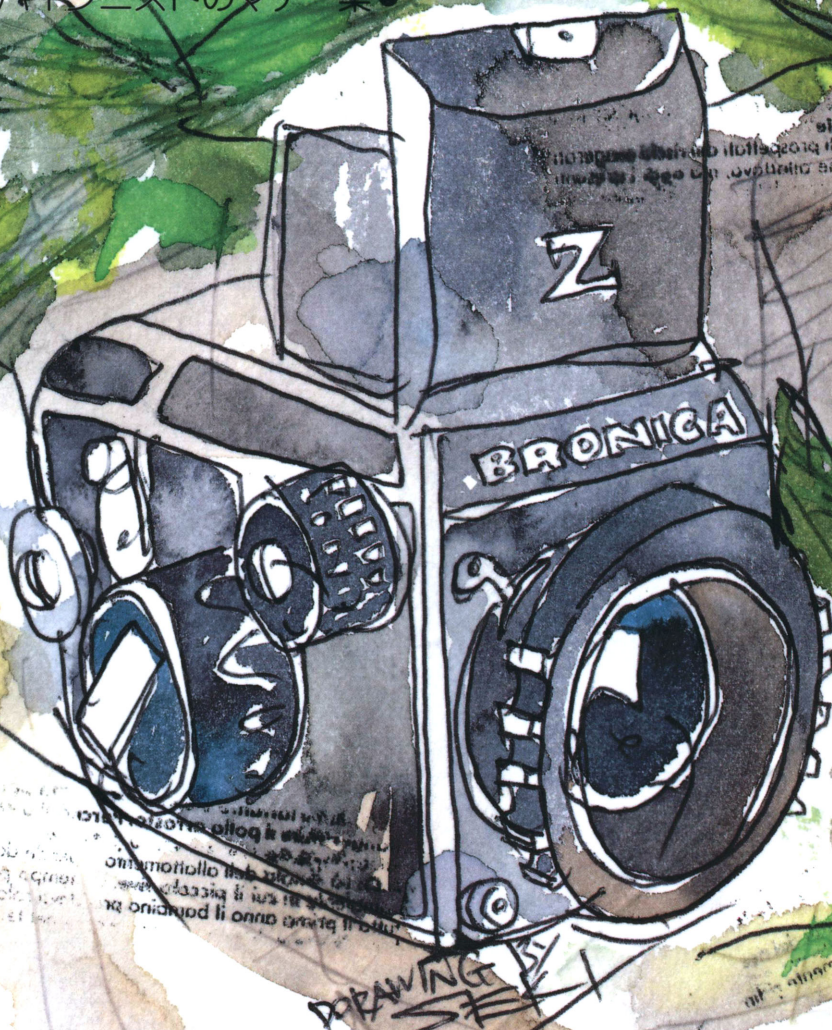
歯科医療に携わる女性のための専門誌

歯科衛生士

THE JOURNAL OF DENTAL HYGIENIST

- Co-Dental Staff Communicationの展開と
新しい補綴治療の流れPart 2 ●
- 日米のフロッシングと歯間ブラシの意識調査 ●
- 歯肉を読む ●

《連載》歯磨きの文化史／今、私は仕事適齢期／私の薦める一冊／
ハイジニストのマナー集 ●



日米のフロッシングと歯間ブラシの意識調査

西郡千恵子

(田中歯科クリニック・歯科衛生士)

長野ゆう子

(田中歯科クリニック・歯科衛生士)

高橋美和

(ドクターマッコイ歯科研究室・歯科衛生士)

田中俊樹

(ドクターマッコイ歯科研究室)

はじめに

現在、ブラッシングは学校保健、歯科医療機関、テレビのCMなどを通じて、なんらかの形で一般大衆の日常生活の習慣の一つとなっていると言えるでしょう。さて、それではフロッシングや歯間ブラシの使用の実態はどうでしょうか。

教科書や専門誌を通じ、私達指導者にはフロッシングや歯間ブラシの重要性や使用法、またその有効性等についての情報が数多く入ってきています。そこで、デンタルフロスや歯間ブラシが実際に患者さんにどれだけ理解され、浸透しているかを知ることが、私達の日常臨床を顧みる一つの良い機会となるのではないかと考えました。

今回私達は、指導者側と被指導者側とに大きく2つに分け、それぞれ違った立場から現在の日常生活の中でいかにフロッシングを指導しているか、また行なっているか、そして、その認識度が低いとすれば、どこに原因があるのかを考えてみたいと思います。この調査は日本国内だけでなく、アメリカの開業医院においても同じ項目で行ないました。すなわ

ちブラッシング、歯間ブラシ、デンタルフロス、ラバーフロス等の項目で行ない、日米間に差があるかを見てみました。特に、今回はフロッシングと歯間ブラシの項目を取り上げ比較検討してみました。

調査方法

今回のデータは、神奈川、東京、静岡にある開業歯科医院、合計21ヶ所と、日本駐在米国軍事歯科診療所(横須賀)1ヶ所、米国のカリフォルニア州、コネチカット州、ニュージャージー州、ニューヨーク州、マサチューセッツ州の5ヶ所の一般歯科診療所におけるアンケート調査の結果です。

アンケートは2種類用意し、指導者用と被指導者用とに分けました。指導者用は、日米の歯科医師と歯科衛生士を対象として行ない、被指導者用は、各診療所に来院した患者さん、特に新規登録患者及び来院中の患者さんの中でブラッシング指導及びフロッシング指導を受けていない方々を対象としました。

具体的な質問内容は図1-a、bの通りです。

図1-a,b アンケート用紙（指導者用、被指導者用）。

日米指導者用	
Q : A - 1 デンタルフロスを指導したことがありますか？ (Do you give instructions for dental floss ?) ・ はい (Yes) ・ いいえ (No)	b 時々、週2・3回 (Often, 2 to 3 times a week) c たまに、月2・3回 (Sometimes, 2 or 3 times a month) ・ いいえ (No)
Q : A - 2 ご自分は使用していますか？ (Do you use dental floss ?) ・ はい (Yes) a 毎日 (Everyday)	Q : A - 3 歯間ブラシを指導していますか？ (Do you give instructions for interproximal brush ?) ・ はい (Yes) ・ いいえ (No)

日米被指導者用	
Q : B - 1 デンタルフロスの使い方を習ったことがありますか？ (Have you ever had instructions for dental floss ?) ・ はい (Yes) ・ いいえ (No)	2 or 3 times a month) ・ いいえ (No)
Q : B - 2 日常デンタルフロスを使用していますか？ (Do you use dental floss daily ?) ・ はい (Yes) a 毎日 (Everyday) b 時々、週2・3回 (Often, 2 to 3 times a week) c たまに、月2・3回 (Sometimes,	Q : B - 3 歯間ブラシの使い方を習ったことがありますか？ (Have you ever had instructions for interproximal brush ?) ・ はい (Yes) ・ いいえ (No)
	Q : B - 4 日常歯間ブラシを使用していますか？ (Do you use interproximal brush daily ?) ・ はい (Yes) ・ いいえ (No)

アンケート結果

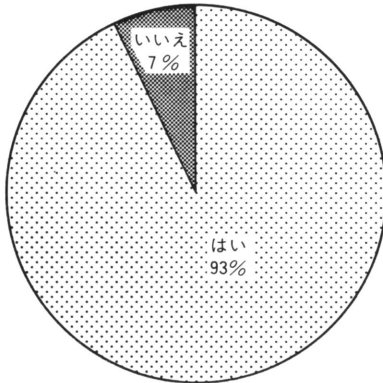
前記のアンケート調査に対し、日本は東京、神奈川、静岡の歯科医院21ヶ所における指導者61名、被指導者235名、米国は本土5州と、

日本駐在軍事歯科診療所1ヶ所における指導者38名、被指導者130名から回答を得ることができ、これらをグラフ化したものを次に掲げました。

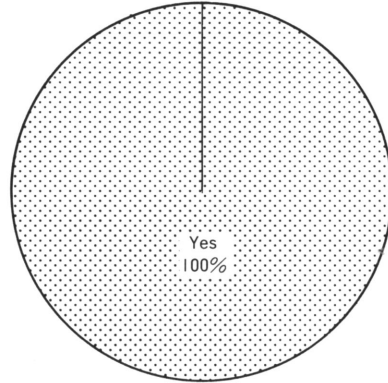
指導者用アンケート A

Q : A-1 デンタルフロスを指導したことがありますか？ _____

日本

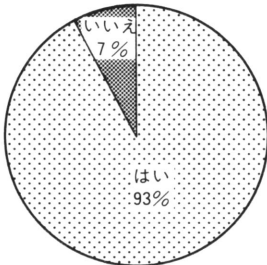


米国

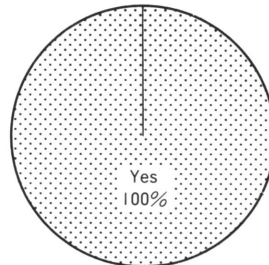


Q : A-2 ご自分は使用していますか？ _____

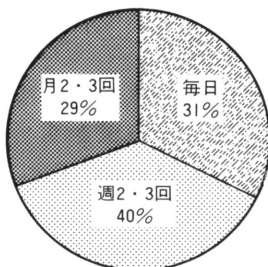
日本



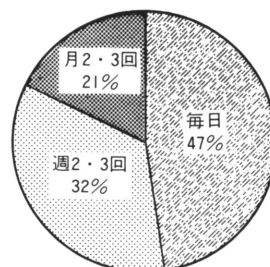
米国



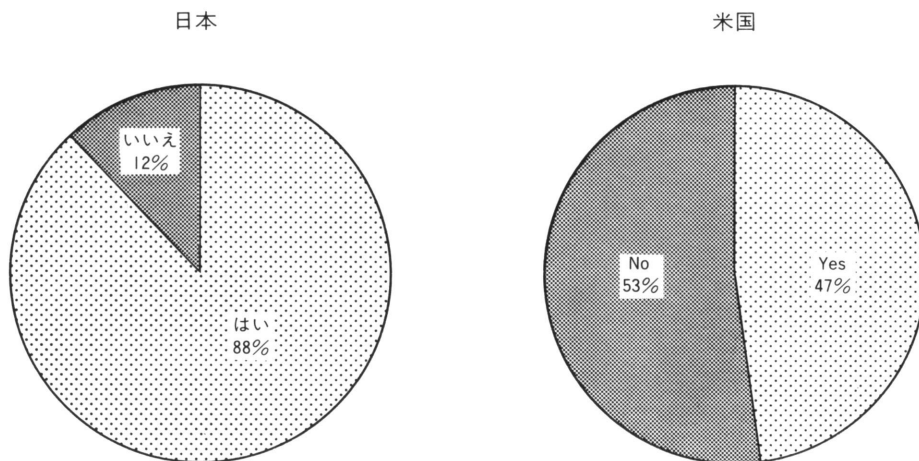
日本



米国

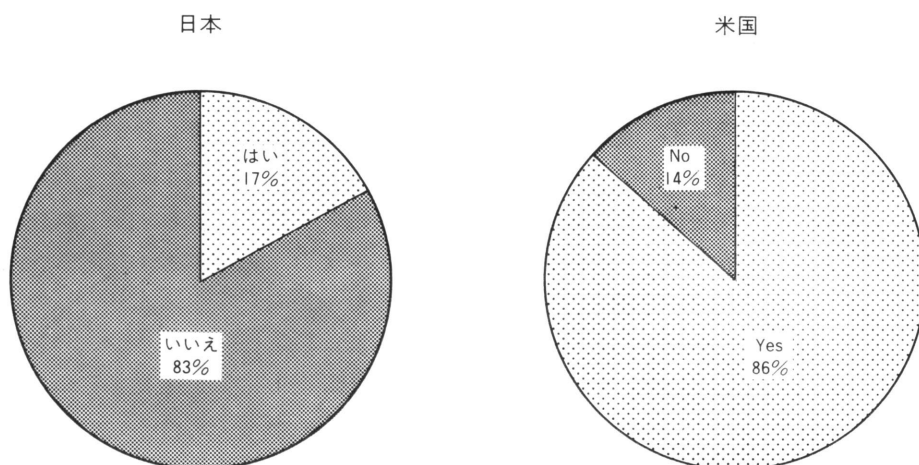


Q : A-3 歯間ブラシを指導していますか？



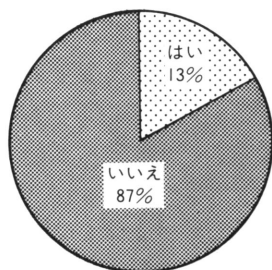
被指導者用アンケート B

Q : B-1 デンタルフロスの使い方を習ったことがありますか？

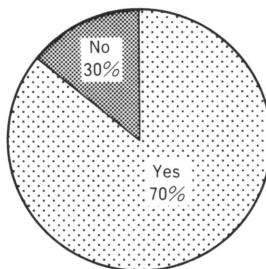


Q : B-2 日常、デンタルフロスを使用していますか？

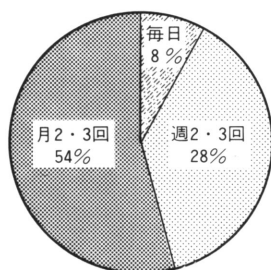
日本



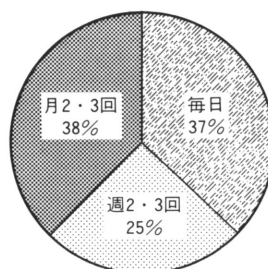
米国



日本

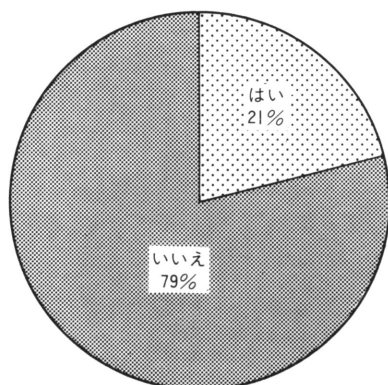


米国

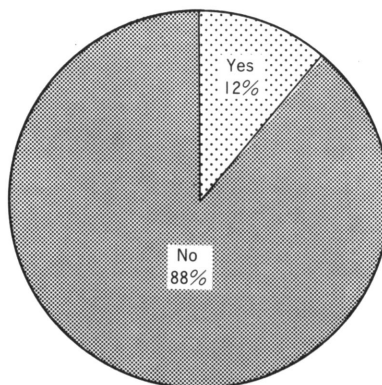


Q : B-3 歯間ブラシの使い方を習ったことがありますか？

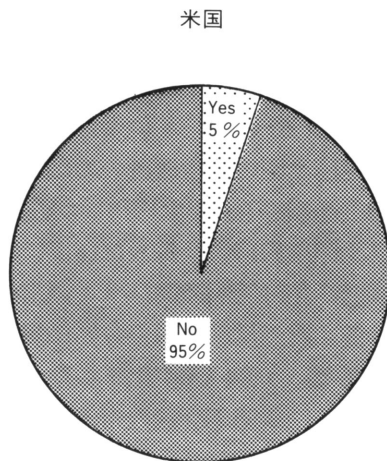
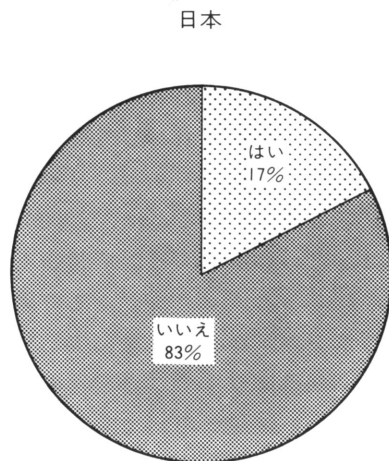
日本



米国



Q : B-4 日常、歯間ブラシを使用していますか？



考察

a. フロッシングについて

Q : A-1においては、日米の有意差はなく、ほとんどの指導者がデンタルフロスの指導を行なっているようです。これはフロッシングがプラークコントロールにいかに重要かということを示していると思います。

Q : B-1の結果をみると、日本ではデンタルフロスの使用法を習ったことのある人は17%であるのに対し、米国では86%という大差が出ています。これは先の日本の指導者における数値とはかなりかけはなれています。

Q : A-2、B-2からは、日米指導者のフロッシング意識は非常に高く、日常生活に取り入れていることがわかりました。更に一般患者におけるフロッシングの浸透度を見ると、米国では70%の人達が行っておりそのうち約半数は毎日フロッシングをしていましたが、

一方日本においてはたった13%しか浸透しておらず、更に毎日フロッシングを行なっている人はその10分の1にも満たないという結果が出ました。以上の結果から、私達はディスカッションを行ない日本でのフロッシングの浸透性の低さの原因をいくつか、考えてみました。

①デンタルフロスの歴史の浅さ、②一般歯科指導者の認識不足（指導経験があっても、全ての患者さんに行っていない、保険項目にない等）、③歯科医院以外の学校保健教育や、市町村の保健所におけるフロッシング指導の不足、④患者さん自身の自己健康管理意識の低さ、⑤フロッシングにはテクニックが必要、などがあげられました。

隣接面齲蝕は、小窩裂溝齲蝕に並ぶ齲蝕の好発部位で、更に歯間乳頭部の歯肉炎にも深く関与していることをもう一度再認識し、まず日常診療において全ての有歯顎の患者さん

に、フロスの有効性を知らしめてゆく努力が必要ではないでしょうか。

b. 歯間ブラシについて

歯間ブラシ自体をすべての人に指導するかどうかはこれからの課題ですが、私達の得たデータQ：A-3、B-3、B-4においては、日本の被指導者は米国の被指導者の約倍の21%が歯間ブラシの指導を受けており、米国では日常歯間ブラシを用いている人は僅かに5%でした。また、指導者が歯間ブラシの指導をしていると答えたのは、米国の47%に対し、日本では88%という高い値が出ました。このことから日本では歯間ブラシの指導が米国より一般臨床に浸透しており、その重要性が認められていると思われます。米国においては、その指導がいまだ日本の約半分しか浸透していないという結果は意外でした。

おわりに

国際的な情報ネットワークの発達のおかげ

で、日本とアメリカにおける情報量は近年ほとんど差がないといってよいでしょう。そのような状況下で、今回のような日米間の意識差が認められたということは大変興味深く思われました。

米国における大衆のフロスの浸透率は想像以上に高く、日常習慣として取り入れられているようです。日本の臨床において、フロッシングを日常化することは、これからの一大課題だと思われます。そこで問題点の1つと考えられているデンタルフロスのテクニックの難しさ、わずらわしさを、少しでも解消するため、私達はラミテック素材のラバーフロスを開発し、臨床で用いて非常に良い結果を得ています。この件に関しては8月号に詳しく報告する予定です。

今回のアンケート調査に対して、日米の多数の歯科医院と患者さんの協力が得られたことを心から感謝しております。

参考文献

- 1) 向井正視ほか：dental flossの性状と使用法，愛院大歯誌，11(3)：194～203，1973.
- 2) Charles, H.H. et al. : The effects of waxed and unwaxed dental floss on interdental plaque accumulation and interdental gingival health. J. Periodont., 44 : 413～441, 1973.
- 3) Lamberts, D.M. et al. : The effect of waxed and unwaxed dental floss on gingival health part 1, Plaque removal and gingival response. J. Periodont., 53 : 393～400, 1982.
- 4) 田中米保夫，浅井映好ほか：プラークコントロールにおけるフロッシング-Bass法を中心として，歯界展望，44(3)，1974.
- 5) 山本昇，長谷川紘司ほか：Interdental BrushとDental Flossの清掃効果について，日歯周誌，17(2)，1975.
- 6) 中野愛子：合理的フロッシング，GP3 ムカイアート，コミュニティ，1976.
- 7) 中野愛子：デンタル・フロス 使用の目的とその合理的操作法，クインテッセンス・ジャーナル，9～11，1979.
- 8) 中野愛子：デンタル・フロスとその応用の実際，クインテッセンス・ジャーナル別冊，クインテッセンス出版，東京，1984.
- 9) 中野愛子：隣接面におけるデンタル・フロス応用の実際(2)，クインテッセンス・ジャーナル，4，1985.
- 10) 藤井圭子：デンタルフロスの選択—その通過性からみて—，デンタルハイジーン：第6巻第2号，1986.